



P R E S S R E L E A S E

インドに新拠点「Fuso Tech Centre India」を開設

2026年3月12日

- インドに新たなグローバル拠点を設立し、開発・IT・サービス体制を強化
- 最新設備により、製品の開発効率と品質向上を加速

三菱ふそうトラック・バス株式会社(本社:神奈川県川崎市、以下 MFTBC)は、インド・タミル・ナードゥ州カーンチープラムに新拠点「Fuso Tech Centre India Private Limited」(以下、FTCI)を開設し、2026年3月9日より業務を開始しました。MFTBC は、これまでダイムラートラックグループの体制で培ってきた技術力をさらに発展させ、その機能を MFTBC の組織として再編し、集約・強化するもので、今後は MFTBC のグローバル拠点として、多岐にわたる製品技術と業務を担う拠点となります。



Fuso Tech Centre India 受付

延床面積2,847㎡のオフィスは、コラボレーションを促すワークスペースに加え、デザインスタジオ、実車を使わずに高度な制御テストを可能にし、開発の安全性・スピード・精度の向上が実現できるHIL(Hardware-in-the-Loop)テスト設備、診断ラボなどの先進設備を備えています。これにより、開発、カスタマーサービス、コストエンジニアリング、IT・デジタルソリューション、調達を含めた各機能が連携して MFTBC の業務を横断的に支援します。製品の設計・検証・診断の各開発プロセスの高度化を通じ、開発スピードと品質の双方を引き上げます。あわせて、変化に迅速に対応できる柔軟な体制と意思決定を可能にし、グローバル事業の機動性と連携力を強化します。

MFTBC は、2013年より、インド・チェンナイにあるオラガダム工場から、一部の中・大型トラックを海外市場向けに供給しています。同工場は、ダイムラートラックの海外生産拠点の一つとしてダイムラー・インド・コマーシャル・ビークルズ社(DICV)が運営しています。

FTCI は、このオラガダム工場の近隣に位置し、MFTBC を専属で支える戦略的なグローバル技術・イノベーション拠点として機能します。FTCIは、DICV およびその生産設備との緊密な連携を通じて、商品開発から生産、アフターセールスに至るまで、MFTBC の統合的な価値提供体制を強化し、グローバルネットワークにおける中核的役割を一層高めていきます。



三菱ふそうトラック・バス株式会社について

三菱ふそうトラック・バス株式会社(MFTBC)は、川崎市に本社を置く商用車メーカーです。ダイムラートラック社が89.29%、三菱グループ各社が10.71%の株式を保有しています。90年以上の歴史を持つFUSOブランドのトラックやバス、産業用エンジンを世界約170の市場向けに開発・製造・販売しています。日本初の量産型電気小型トラック「eCanter」による電動化や、運転自動化では大型トラック「スーパーグレート」に国内商用車初のSAEレベル2相当の高度運転支援技術を実装するなど、先進技術の開発に積極的に取り組んでいます。

FUSO ブランドについて

「FUSO」はダイムラートラックのブランドの一つです。世界約170の市場において、トラックやバスといった商用車や産業用エンジンを展開しています。90年以上の歴史と日本ならではの品質や熟練技術による効率性や安全性、快適性が特徴です。小型トラック「キャンター」は世界中の様々な市場でトップシェアを獲得しており、日本初の量産型電気小型トラック「eCanter」をグローバルに展開し、商用車の電動化をリードしています。ブランドスローガン「Future Together」の下、FUSO はお客様とともに安全かつサステナブルな輸送ビジネスを未来へ繋いでいくことを約束します。